

七転び、八起き 一教職大学院での学びを現場で活かす一

その2 教職大学院での学び 「一期一会、様々な出会い」

大学院での2年間の学びはとても刺激的でした。そしてそれは、次の3つの「出会い」があったからこそ充実した日々とすることができたのだと思います。

一つ目は、「自分との出会い」です。

大学院では、講義と学校支援フィールドワークを通して学問知と教育現場での実践知を往還させ、新たな実践を創り上げていくことの重要性を肌で感じることができました。そうした学びの中で、これまでの自己の実践や自身の教育に対する姿勢を振り返る機会となり、自身の教育観や、自己の課題をより明確にすることができました。つまり、自分自身をじっくりと見つめることができたことで、これから自分がやるべきことや学びの方向性を見出すことができ、今まで漠然としていた疑問の正体を少しずつ明確にすることができました。

二つ目は、「研究との出会い」です。

調査・統計手法等を用いた実証研究との出会いを通して、エビデンスを基にした論理的な物事の見方、考え方の大切さに気付き、研究を行っていくための基礎的能力の一端を身に付けることができました。その中で、これまで行ってきた教育の効果に対する自身の考え方を改め、客観的、論理的な物事の見方や考え方を知ることができました。また、論文作成の中で研究者の苦労や喜び、楽しみなどの一端を窺い知ることができたことは、今後の教育活動を実践していく上でとても貴重な経験です。

三つ目は、「人との出会い」です。

こうした学びを得ることができたのもそれを支えてくれた人たち、ともに学び合えた仲間、研究を通じて知り合うことができた多くの人たちなど、様々な人との出会いがあったことでした。そうした人たちとのつながりの大切さについて改めて実感し、そうした出会いに恵まれたことで、様々な見方、考え方を得ることができました。改めて教員のあるべき姿について考え直し、視野を広げ、深めるとても実り多い充実した機会となりました。

以上のかげがえのない3つの「出会い」を通して、教育学や心理学を基盤とした学校教育に対する見方、考え方、視点をえることができました。そして、こうした自分自身を成長させる機会をいただき、様々なことにチャレンジさせていただけたことに感謝しています。

さて、こうした大学院で学びを経て現場に戻ってきたわけですが…その話は次回に。

(福島県喜多方市立第二中学校 吉村憲治)